**○セイヨウイトバマツムシソウ(新称)について**（淺井康宏）　Yasuhiro ASAI: *Scabiosa columbaria* L. recently naturalized to Japan as an alien weed

最近，東京都世田谷区内の向陽荒地で，繊細なマツムシソウ科の一外来植物を見出した。

草丈1mばかりにもなり，茎は直立し細く，上部で多少分岐し，ほとんど無毛。上方の葉は羽状に分裂し，裂片は線状披針形，全縁である (Fig. 1)。6-7 月頃，葉腋から細花梗をのばし，半球形の径 3 cm 内外の淡青紫色の頭花をつける。総苞片は花冠よりも短く，短毛がある。

調べてみたところヨーロッパ，北アフリカ，アジアの原産で，また北アメリカにも帰化し，small scabious の英名を有する *Scabiosa columbaria* L., Spec. Pl. 99 (1753) であることが判った。

この仲間 (*S. columbaria* group) は，原産地においても極めて変化に富むものとされ，多くの種類が記載されている。しかし現在のところでは，それぞれ亜種のランクで区別するのが妥当と考えられているようで，ここでは基本種 ssp. *columbaria* に当てておく。因みに総苞片が花冠よりも長く，長毛を有するものを ssp. *pseudobanatica* (Schur) Jávorka et Csapody とされる。

ところで本種は昭和の初期に栽培品として，既に我国へ渡来した記録があるが，しかし今回のものはこれとは別に，恐らく北アメリカなどからの輸入物資に随伴して侵入したものと考えられる。いずれにしても本種は，まことに見ばえのしない貧弱な雑草である。今後，これが継続して帰化状態となるか否かは不明であるが，一応本種が野外で外来草として存在したことを記録に止めておく。

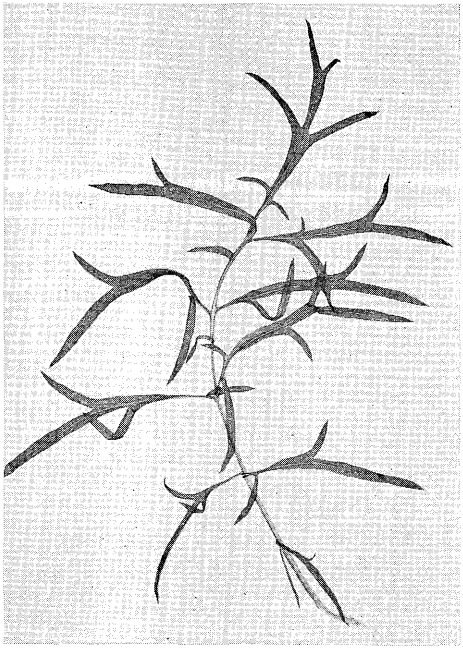

Fig. 1. Leaf in upper part of *Scabiosa columbaria* L. collected by Y. Asai (July 2, 1986).

*Scabiosa columbaria* L., a native of Europe, newly naturalized to Japan as an alien weeds. This small scabious was found in sunny waste spot of Setagaya-ku, Tokyo on June 25, 1986.

（東京歯科大学）